2017年6月17日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第17回）

**［大使館のＩＤカードについて］**

同じ１枚のＩＤカードで、バガヴァッド・ギーターのクラスにもウパニシャッドのクラスにも参加が可能です。誤解があるといけませんので確認のためにそのことをお話ししました。

**＜ナチケーターへの対応＞**

カタ・ウパニシャッドを続けます。ナチケーターは死神ヤマのところにいきましたがヤマは留守でした。ナチケーターは３日間何も食べず、何も飲まず、寝ないでヤマを待っていました。それでヤマの家族は心配しました。ブラーミンを怒らせることが怖かったからです。

インドにはカーストがありますね。ブラーミン、クシャトリア、ヴァイシャ、シュードラ、その中で一番霊的な力があるのはブラーミンです。もし、ブラーミンのカーストの人が怒りますとその結果で呪います。それで皆さんはブラーミンたちをとても怖がりました。

もし過ちがあったりブラーミンに悪いことをしますと、ブラーミンが怒って呪う危険があります。ナチケーターもブラーミンでした。ナチケーターは３日間ヤマの家でずっと待っていました。ヤマは家住者でしたから自分の息子、娘、富もありました。家住者にとってブラーミンの怒りは怖いです。

やがてヤマが戻ってきました。するとヤマは次のように告げられました、「或る若いブラーミンが来て何も食べず、何も飲まずにずっとあなたを待っていました。もしそのが怒りますと、あなたのすべてのものはなくなります。ですからあなたはすぐに行って彼を喜ばせてください」と。

ヤマはナチケーターのところに行き「３日間あなたを待たせましたから１日１つとして３つの願いを言って下さい。私はそれを満足させます」と言いました。ヤマはとても力強い神様ですから本当に願いを満足させることができます。

さて、もしあなたがナチケーターの立場ならばあなたは何を願いますか。突然ヤマがあなたの目の前に現れて「あなたの願いを言って下さい。かなえます」と言ったらすぐに答えられますか。すぐに答えられるように前から準備をしておかないといけないですね。

突然そう言われて「立派なレストランに行ってお金を使わずに好きなだけ食べたい」というような願いはあまり良くないでしょう。「お金をかけずにアメリカに行きたい」というのも同じですね。ですからそのような答えにならないように前から準備しておいてください。

あなたはたくさんウパニシャッドを勉強していますし、バガヴァッド・ギーターを勉強していますから神様はとても喜んでいるでしょう。ですから突然神様が現れてそう尋ねられる可能性がありますので最初から考えておいてください。

**「自分の願いが何か」を考えておくことは本当に大事です**。尋ねられてとっさに出る願いや考えは本当は良くないもの、浅いものである可能性があります。ですから、最初から準備しておいてくださいと言っています。尋ねられてちょっと待ってください、しばらく考えますという時間はそのときにはないです。パッと即答しないといけません。

**＜ナチケーターの最初の願い＞**

ナチケーターは今までいた世界からヤマの場所に行きましたね。「ヤマの場所に行った」の意味は「死んだ」ということです。「死ぬ」を表す言葉はたくさんあります。サンスクリットではガッチャンディヤママンディランという言葉がありそれを訳すと「ヤマの場所に行く」で意味は「死にました」です。

日本語では「死ぬ」をどう表現していますか。「この世を去る」、「亡くなる」、「逝去する」などです（参加者の答え）。インドでは哲学的な表現で、その人は「身体をやめました」、その人は「５つの要素にまた戻りました」という表現があります。

５つの要素はサンスクリットでパンチャットワム（Panchatvam）（パンチャが５を表す）です。身体は５つの要素で作られていますね。死んでそれらが前の状態に戻りました。例えば、身体の土の部分は土の要素に戻りました、身体の水の部分は水の要素に戻りました。

もう一つの言い方は「天国に行きました」です。それから「行きました」だけもあります。そして「ヤマの場所（ヤママンディラン）に行く」です。例えば、「ナチケーター・ヤママンディラ・マガチャット」で「ナチケーターはヤマの場所に行きました」です。その意味は「ナチケーターは亡くなりました」です。

ナチケーターのお父さんはナチケーターに言いましたね、「あなたはヤマの場所に行ってください、私はあなたをヤマにあげました」と。それでナチケーターは死にました。

お父さんはそうなるとは考えていなかったですが、ナチケーターはそのことを文字通りに考えてヤマの場所に行きました。ナチケーターは死にました。死にましたからナチケーターはとても良い息子ですね。それでお父さんはとても悲しんでいます。

ナチケーターの最初の願いの中には３つの願いが入っています。ナチケーターはとても頭が良かったですから一つの願いの中に３つの願いを含めました。一つの願いで３つの恩恵を得ようとする例えが『ラーマクリシュナの福音』の中に入っています（同書、583頁参照）。

その例えはこうです。神様が信者の前に現れて「あなたの願いを一つ言ってください」と仰いました。その信者は「私は孫と一緒に金のお皿でご飯が食べたいです」と答えました。そこにはまず長生きの願いが入っています。そうしないと孫を見られません。子供と孫が欲しいというもう一つの願いも入っています。そして金の皿、すなわち、金持ちの願いも入っています。つまり、この願いの中には、長生きと孫と金持ちの３つの願いが入っています。

ナチケーターも最初の願いの中に３つの願いを入れました。一つ目は、私がここ（ヤマのところ）に来ましたからお父さんはとても悲しんでいますので、お父さんの悲しみがなくなり安心の状態に戻るようにしてくださいという願いです。

二つ目は、またお父さんのところに戻してほしいという願いです。ナチケーターはヤマの場所に来ましたが永遠にヤマの場所にいるわけではありません。ナチケーターの死は普通の死ではありません。普通の人はカルマの法則で亡くなりますがナチケーターはそうではないです。ナチケーターは自分の意思で来ました。そしてナチケーターの希望はヤマがナチケーターを戻すことです。

三つ目の願いはお父さんのところに戻った時にお父さんが私だとわかることです。なぜそう願うかと言えば、死んだ人がもし自分の前に来ますとそれはお化け・幽霊に見えます。皆さん、死んだ人のためにとても悲しんでいますが死んだ人が本当に目の前に現れますと怖いです。それが矛盾です（笑い）。

愛する人が亡くなりますとその人のために悲しみその人にまた会いたいと思います。しかし本当に来ますと怖いです。怖くて逃げます（笑い）。それだけでなく神様が来ても怖いです。心の準備がないと神様が来ても信じません、お化けと考えます。ですから心の準備が必要です。

バイブル（聖書）の中にそのことが書いてあります。亡くなった人が天国に行きました。そして「天国が本当にあることを、私は世界に戻って皆さんに連絡したい」と天使に言いました。天使はこう答えました、「あなたが世界に戻ってそのことを言っても誰も信じません。あなたをお化けだと考えます、あなたは嘘を言っていると考えます」と。

そしてナチケーターもそう思われる可能性があります。お父さんはナチケーターではない、本当はお化けだと考えます。なぜなら、普通は戻らないですね。一回行きますと絶対戻らない。だからお父さんは信じません。それでナチケーターは、私が戻った時にお父さんが私と認めることができますように、本当に私の息子だと理解できますように、と言いました。

しかしお父さんは私であることを理解してもまた怒る可能性がありますね。だから怒らないで、また前のようにお父さんが私を愛する状態に戻してくださいと願いました。ヤマはその願いをかなえることは難しいことではないですから、全部OKと言いました。

**＜ナチケーターの第二の願い＞**

ナチケーターはとても若くてとても利口でとても純粋です。普通の若い人ではないです。とてもとても特別ですがそれはだんだんわかります。

ナチケーターは言っています、「私は天国があると聞いたことがあります。私が天国へ行きたいならあなたはその願いをかなえてください」と。普通は天国に行くためにはたくさんのヤッギャー、例えば、霊的な実践が必要です。普通の方法では天国に行かないですね。

天国へ行くためには厳しいやり方、大変なやり方があります。そしてナチケーターは言っています、「あなたの恩寵で私が天国に行くための準備をしてください」と。ヤマは答えました、「それもOKです。あなたは天国へ行くことができます」と。

**＜ナチケーターの第三の願い＞**

ナチケーターの第三の願い、そこからカタ・ウパニシャッドの本題が始まります。その前までは物語みたいです。第三の願いは深い願いです。普通の人はその願いをかなえてほしいとは思いません。とてもとても特別な願いです。皆さんここからが本当に大事ですね。

ナチケーターは言いました、「私は聞いたことがあります。死について二つの意見があります。一つの意見によれば、死んだ後その人の存在は全部なくなります。存在は何も残らず、100％なくなります。もう一つの意見によれば、全部はなくならない。存在の或る部分が死んだ後も続きます」と。

或る部分はなくなっていないという意見があります。けれども、どのようになくなっていないのでしょうか。どのような状態で残りますか。どのように続きますか。その状態はまた何かになりますか。どこかに行きますか。分からないですね。

今日の参加者にお尋ねします。亡くなった後死んだ人の存在は何も残らいないと思う人は挙手してください。（だれも挙手しないので）誰もそう思わない、本当？（笑い）あなたは科学者ではないですね。科学者のほとんどは存在の或る部分が残るとは信じてないです。物質的な哲学者もほとんど信じていないですね。

それではまたお尋ねします。亡くなった後、存在は続けていると考える人はどれくらいいますか。（皆が挙手）OK、それではどのように続けていますか。その詳しいことを知っている人はいますか。

ここで少し広告をします。日本ヴェーダーンタ協会から一つの本が出ます。本の出版はすぐです（笑い）。その本のタイトルは「**輪廻転生とカルマの法則**」です。その中に詳しいことが書かれてあります。もしよければそれを読んでください。

さきほどの２つの意見に戻ります。何も残らないと考える人はこのクラスにはいませんでしたが、物質的な哲学者や科学者にはけっこういます。死んだ後は全部なくなると彼らは考えています。

例えば、火葬で燃やしますと身体がなくなります。火葬場の経験はありますか。もちろん自分の火葬ではありませんよ（笑い）。親戚や友人の火葬ですね。私も日本に来て何回も経験があります。インドでもあります。

炉の中に入れますね。大きなトレーのような中に死んだ人を入れますね。それで１時間半くらい待ちます。皆さんその間どうぞティーを飲んでください、ご馳走食べてくださいと言われます。皆さんは喜んでそうしますが、自分も同じ状態になることを一回も考えません。

そして１時間半くらい、おしゃべりや食事をします。それで１時間半くらい後、その場所に行きますと死んだ人が灰になって戻ってきます。１時間半くらい前までは人間の形でしたが、１時間半の後は灰です。

その状態になりますとその人が元の人間の形に戻るのは無理でしょう。論理的に考えれば無理です。その人の状態が灰になったのを目の前で見ていますから何の部分も戻らないと考えるのは変ではないですね。このように考えるのは論理的ですし現実的です。

ナチケーターはヤマに、「あなたは死神ですから、死んだ後のことを良く知っています。他の人は知らないです。他の人は聖典を読み聖典を聞きますが想像的です。しかし、あなたには死んだ後のことがはっきりわかります。二つの意見がありますが本当はどうなのか言ってください」と質問しました。

普通の質問ではないですね。１２歳の子供がする質問ではありません。とても特別です。ヤマはその願いを言われたとき、すぐにはかなえませんでした。なぜでしょうか。

我々は他の人から聞いたことから想像して質問することがありませんか。自分が本当に理解したくて質問しているのではないことがありますね。少しだけ勉強して浅い興味で聞くことがあります。本当はたいして興味はないです。遊びみたいな興味です。

例えば、或る人が私（お坊さん）に質問をします。皆さんはお坊さんを見て質問のやる気が出ています。お坊さんに質問するのは普通のことではないですから。しかし私が答え始めるとすぐにその人の興味が失せている可能性があります。ヤマはそれを確認したかったのです。興味が浅いものや一時的なものなのか、深いものなのかを。

もう一つはヤマが答えてもその答えがわからない可能性がありますね。ときどき私は質問をされますが質問の答えを聞いてもわからないことがありませんか。ありますでしょ。理解することができる、あるいはできない。それも確認のポイントです。

ヤマの答えは哲学ですからとても難しいです。しかしナチケーターはとても若いです。ヤマの答えを聞いて理解することができる頭を持っているでしょうか。とても頭がいい人でも、その答えはとても複雑でとても精妙ですから、言ってもわからない可能性があります。

そしてもう一つはその種類の答えを聞くための心の準備があるかどうかです。その答えを聞くには頭だけではなく心の準備が必要です。心の準備とは、例えば、心がきれいでないとその答えを聞いてもわからないということです。例えば、我々のことで考えてみましょう。

我々は真理のことを何回も聞いています。バガヴァッド・ギーターやウパニシャッドの勉強のとき「あなたの本性は魂です、内なる自己です、純粋な意識です」と何回も聞いています。「私は身体ではない、私はアートマンです」と聞いて本当に理解できていますか。

「私は身体ではない、私は魂です」と本当に信じていますか。我々は信じていませんね。例えば、突然に地震が起こりますと皆さん逃げますね。どうして逃げますか。逃げないと私は死ぬ、なくなると思うからですね。しかし、どなたがなくなりますか。

あなたはアートマンでしょう、魂でしょう。なくならないです。身体がなくなります。ですから「私はアートマンです、魂です」と聞いても信じていないのです。信じていないから死の恐怖が出るのです。はっきりわかりましたか。

このように我々はたくさん聞いていますが信じていません。信じていても浅い信仰です。深い信仰ではありません。なぜかと言えば、我々は身体意識がとてもとても強いからです。どうしてそれほど身体意識が強いのでしょうか。なぜなら心の準備がないからです。

心がきれいではない（心の準備がない）ですから、身体意識はとてもとても強いです。我々には楽しみの欲望がたくさんあります。楽しみの欲望がありますから我々の心は純粋ではないです。楽しみの欲望がある間、心は純粋にならないです。

楽しみはほとんど感覚と身体的レベルのものですから、楽しみの欲望があるとき身体意識は絶対に強いです。そして心の準備（心のきれい）がないですから何回聞いても真理を本当には信じていないです。ですから心の準備が大事です。

ヤマは答える前にナチケーターに３つの準備の全部があるかを確認したかったのです。一つは興味が本当に深いかどうか。もう一つは頭がどうか。答えはとても哲学ですから。バクティー・ヨーガとギャーナ・ヨーガとはそこが違います。バクティー・ヨーガの実践、カルマ・ヨーガの実践のためには頭はそれほど要りませんがギャーナ・ヨーガには絶対必要です。

そして頭だけではなくもう一つのポイントが心の準備です。頭だけでよかったら学者は皆ウパニシャッドを理解することができるはずですができていません。なぜなら、理解するには純粋な心が必要だからです。

その３つのポイントを確認することなしにヤマは教えたくありませんでした。そこでヤマは言います、「その答えは複雑ですからあなたは別の願いをしてください。あなたはとても若いですから、あなたが知りたがっている質問に対する答えを言っても理解するのは難しいです。約束ですからあなたの願いはかなえますが別の願いを言ってください」と。

しかし、ナチケーターはその願い以外に別の願いはないですから、「私の願いはその願いだけです。第三の願いはそれだけです」と言いました。それでヤマは困りました。「困りました」の意味は、約束しましたからその願いをかなえなければならないということです。

そしてその問からカタ・ウパニシャッドは始まります。これ以降がカタ・ウパニシャッドの内容です。その前まではずっと導入部、窓口でした。ここから本題に入ります。粗大な体、精妙な体、魂は、死んだ後どのようになります。またどのように戻ります。アートマンの本性は何ですか。どのようにその本性を悟りますか。その話が今から始まります。

これからサンスクリットのテキストを使います。「**カタ・ウパニシャッド サンスクリット語と英語の解説**」（以下、「英語の解説」テキストと略称）と「**カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説**」（以下、「日本語解説」テキストと略称）です。日本ヴェーダーンタ協会の<https://www.vedantajp.com/テキストギャラリー/ウパニシャッド/>からダウンロードし印刷してご持参ください。どうか忘れずにお持ちになってください。

**＜サンスクリット＞**

ウパニシャッドはサンスクリット語で書かれています。ですからウパニシャッドのときにサンスクリット語も少し勉強しないといけないです。そうしないと勉強が深くなりません。皆さんサンスクリットはあまり関係ないと考えないでください。インドの哲学を勉強したいなら、サンスクリットは絶対に少しだけでも勉強しないといけないです。

そうしないと味が出ないです。インドの聖典を味わうためにそうしてください。そして世界にはたくさんの言語（フランス語、英語、日本語などなど）がありますがサンスクリット語は一番システム的な素晴らしい言語です。コンピュータのプログラミングのためにサンスクリットは一番完璧だとコンピューターのエキスパートたちが言っています。

また、サンスクリットはDeva-bhāshā（デーヴァ・バーシャー）と言われています。Deva（デーヴァ）が「神」ですからデーヴァ・バーシャーは「神の言葉」、「神の語」という意味です。サンスクリットをなぜデーヴァ・バーシャーというのでしょうか。なぜなら、聖典、例えば、ヴェーダ、ウパニシャッド、バガヴァッド・ギーターは真理ですがそれらはサンスクリットで書かれているからです。

もう一つ、サンスクリットは波動がとてもきれいです。サンスクリット語を理解していなくても発音だけでも完璧にしますとその結果は大きいです。その波動が大きいです。いろいろなマントラがありますね。［ここでGayatri Mantra（ガーヤットリー・マントラ）をマハーラージが朗誦］

　Om Bhur-Bhuvah-Svah／Tat-Savitur varenyam／Bhargo-devasya dhimahi／Dhiyo yo nah prachodayat／Om

オーム・ブールブヴァ・スバㇵー／タッサビトゥール・バレーニャン／バルゴー・デーバッスャ・ディーマヒー／ディヨー・ヨー・ナ・プラチョーダヤートゥー／オーム

（日本ヴェーダーンタ協会CD「ガーヤットリー・マントラ108 ～瞑想と心の平安のために～」参照）

例えば、オームを唱えますとそれだけで雰囲気がとてもとても神聖になります。オームはとてもとても普遍的です。オームはサンスクリットから来ています。今、そのオームを世界のとても多くの人が唱えています。

オームを唱えることは無駄でしょうか。無駄ではありません。本当はその結果があり、オームを唱えるだけで悟りまでもできます。それほど素晴らしいものです。キリスト教徒の伝統の中ではそのオームがアメーンです。キリスト教のアメーンの源はオームです。そのために世界中でサンスクリットを勉強する人がだんだん増えています。

ロシア、ドイツはもちろんでアメリカは昔からです。イギリスの或る学校ではサンスクリットを必須科目にしているのをテレビで見ました。考えてください、皆イギリス人です。そしてあなたはそのことを考えてちょっとやる気を作ってください。サンスクリットが本当は大事です。

サンスクリットは完璧に発音するのがちょっと難しいですが、あなたはそこまで気にしないでください。例えば、耳で違いが理解できないかもしれませんが３つのシャ（便宜的にシャと記しますが発音は３つ全部違います）があります。

S　　Ś　　Ṣ

文字表記すればこの３つです。発音をシンカンセン（新幹線）で考えましょう。shinkansen（シンカンセン）のsenのsが最初の「S」です。そしてshinkansen（シンカンセン）のshinのshが次の「Ś」です。「S」と「Ś」は違いますね。子音だけなのでカタカナ表記は難しいですが発音が違います。

「Ṣ」は日本語にその発音がないかもしれません。サンスクリットで言いますと例えば、ヤクシャー、ワッシャー、シャラーラナという語に使われています。舌を反対にして（手前に巻き上げるように反らせて）発音しますがその発音の仕方は勉強しないと完璧にすることはできません。ですけれどもあなたそれを気にしないでください。

**＜カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第１節＞**

「日本語解説」テキスト（前述）を見てください。テキストにはサンスクリットとローマ字が併記されていますからローマ字でフォローしてくださいね。［最初にマハーラージが唱え、皆が後からくり返す］

*Aum uśan ha vai vājaśravasaḥ sarvavedasaṁ dadau*；

オーム　ウシャン　ハ　ヴォイ　ヴァージャシュラヴァサㇵ　サルヴァヴェーダサㇺ　ダダウ；

*tasya ha naciketā nāma putra āsa*.

タッスャ　ハ　ナチケーター　ナーマ　プットラ　アーサ

言葉の意味を説明します。uśan（ウシャン）は「～を願い」で例えば、「天国に行きたいと願い」という意味です。ha vai（ハ　ヴォイ）に言葉の意味はあまりないです。vājaśravasaḥ（ヴァージャシュラヴァサㇵ）は「ヴァージャシュラヴァの家系の」という意味です。先祖の名前がヴァージャシュラヴァ（昔の聖者）でその家系のという意味です。

sarvavedasaṁ（サルヴァヴェーダサㇺ）のsarva（サルヴァ）が「すべての」、vedasaṁ（ヴェーダサㇺ）が「富」で、sarvavedasaṁ（サルヴァヴェーダサㇺ）は「自分のすべてのもの、すべての富」という意味です。dadau（ダダウ）は「あげました」という意味です。

tasya（タッスャ）は「その人の」、ha naciketā（ハ　ナチケーター）の次のnāma（ナーマ）は「名前」です。putra（プットラ）は「息子」、āsa（アーサ）は「ありました」、「いました」です。

一つ覚えておいてほしいことがあります。それはウパニシャッドが詩の形態で書かれているため言葉の配置が少し前後にバラバラになっているということです。そのためその詩をそのままで理解することはできません。詩を散文に変化させないと意味が出ません（詩の意味を理解するには言葉の配置を変える必要があります）。

「英語の解説」テキスト（前述）は、サンスクリット及びサンスクリットの意味という構成で成り立っています。そして詩を散文に変化させてあります。これで意味がわかりますので私はそれをフォローします。皆さんそのことを覚えてください。［先ほどのAum uśan～naciketā nāma putra āsa.をマハーラージと皆が一緒に朗誦］

背景を含めながらこの詩を説明していきます。或る聖者がいました。その聖者の名前はヴァージャシュラヴァスです。その方の先祖の名前はヴァージャシュラヴァです。ヴァージャシュラヴァの孫の息子くらいに当たるのがヴァージャシュラヴァスです。

先祖の聖者ヴァージャシュラヴァの名前には、他の人にいっぱいご飯を上げる人という意味があります。他の人にたくさんご飯をあげる人、手伝う人、食べさせる人、それがヴァージャシュラヴァです。そのヴァージャシュラヴァの、例えば、孫、或いは孫の息子すなわち曾孫に当たるのがその聖者で名前はヴァージャシュラヴァスでした。

それがナチケーターのお父さんです。ナチケーターのお父さんの名前がヴァージャシュラヴァスです。そのヴァージャシュラヴァスはヤッギャー（儀式）を行っていました。その儀式の名前は原文にはありませんが注釈の中にあり、その名前はヴィッシュワジット・ヤッギャー（Vishwajit yagya）です。

その儀式の条件は何で、その結果は何でしょうか。ヴィッシュワジット・ヤッギャーの条件は「すべての富を他の人に寄付のようにあげないといけない」です。家住者ですから皆、富がありますね。その富を、例えば、プリースト（司祭）に寄付しなければなりません。

プリーストはとても特別な勉強をたくさんして詳しいことを知っていますから儀式を執り行っています。儀式はとても複雑ですから、マントラを含めたくさんの詳しいことを知っていなければなりません。間違えると危ないです。そのためにとても勉強していないとできないです。プリーストは特別な人です。その人にけっこう寄付をあげないといけないです。

儀式にはブラーミンたち、学者たち、聖者たちも来ます。招待しましたから儀式に参加するためにやってきます。その人たちにも寄付をあげないといけません。そうしないとそのヤッギャーを完璧に行うことはできないです。ですから絶対に寄付をあげないといけないです。

ヴィッシュワジット・ヤッギャーの条件、それはあなたのすべてのもの、すべての富をあげることです。それではその結果は何ですか。天国に行きます。大きな結果ですね。天国へは普通の方法では行けないですから、そのための条件もとても特別です。

ナチケーターのお父さんヴァージャシュラヴァスは天国に行きたかったのでそのヴィッシュワジット・ヤッギャーを行いました。その条件はすべての富をあげることでした。そして彼の一人息子がナチケーターです。

**＜カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２節＞**

「日本語解説」テキストの次の節（第２節）を見てください。［最初にマハーラージが唱え、皆が後からくり返す］

*taṁ ha kumāraṁ santaṁ dakṣiṇāsu nīyamānāsu śraddhāviveśa so’manyata*.

タㇺ　ハ　クマーラㇺ　サンタㇺ　ダクシナース　ニーヤマーナース　シュラッダーヴィヴェーシャ　ソーアマンニャタ

意味を見ていきます。dakṣiṇāsu（ダクシナース）は「寄付」です。nīyamānās（ニーヤマーナース）は「あげる」です。寄付であげることになりますがそのあげるものを最初は持っています。そのあげるものは何でしたか。雌牛ですね。寄付は雌牛です。

昔のインドでは一番高い贈り物は雌牛でした。金でも銀でもお金でもありません。なぜ雌牛が一番高かったのでしょうか。雌牛からは牛乳が取れます。そして牛乳からバター、ヨーグルト、チーズも、さらにギーも得ることができます。

ギーを見たことがありますか。これは特別なものです。昔はすべての特別の願いを満足させるための一つの大きな方法はヤッギャーでした。ヤッギャーでは、例えば、火を点けてその中にギーを常にお供えし捧げます。

なぜそうするのかと言えば、或る種類のヤッギャーのときその神様は火の中に存在しています。それでギーをお供えしますと匂いと煙が出ますね。それによってとても精妙なものをその神様はもらいそれで喜びます。

そのようにしてその神様を喜ばせてその神様の恩寵で自分の願いを満足させることができます。それがヤッギャーのアイデアです。例えば、たくさんのお金（富）が欲しいときは、富の女神はラクシュミーですからラクシュミーを喜ばせないといけないです。

たくさんビジネスをして頑張ってお金を稼ぐ方法もありますけれど大変ですね。とても頑張らないといけません。そして利益が出ても損失もあります。ビジネスですからそのリスクがあります。ビジネスで稼ぐという方法もありますがそれは大変ですからもう少し楽な方法が良いですね。

もう少し楽な方法がラクシュミー女神を喜ばせて女神の恩寵でたくさんお金を得るやり方です。昔は自分のいろいろな願いを満足させるために神や女神を喜ばせてほしいものをもらいたいというのが普通のやり方でした。

そしてヤッギャーはたくさんあります。ヤッギャーのためには絶対にギーが必要です。ギーを捧げますと煙が出ます。その煙の形がとても精妙な神様の食べ物ですね。そのようにしてその神は喜んであなたの願いを満足させます。

ギーを得るには、雌牛でないと牛乳は出ませんから雌牛が一番の富でした。それで寄付のために雌牛を持っていました。ナチケーターのお父さんの持っていた雌牛がどんな雌牛だったかは次の節にあります。

ナチケーターはとても若かったです。ナチケーターはその寄付の状態（寄付にする雌牛）を見て心の中に**śraddhā（シュラッダー）**が入りました。前回シュラッダーを説明しましたね。「尊敬」と「信仰」を併せてシュラッダーと言っています。

シュラッダーは特別な一つの心の状態です。普通の意味は「尊敬」ですが、それだけではなくその中にたくさんのアイデアが入っています。求道者のためにシュラッダーは大事です。シュラッダーがないと勉強はできないですし進めないです。霊的な実践を進めることができません。**シュラッダー、その心の状態がとてもとても大事です**。普通の言葉ではありません。皆さん覚えてください。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの中にその言葉は何回も何回も出ています。ナチケーターは大きなシュラッダーを持っていました。その関係でスワーミー・ヴィヴェーカーナンダはナチケーターの例えも使いました。

シュラッダーの普通の意味は「尊敬」ですがどなたに尊敬するのでしょうか。一つは**神様に尊敬**、もう一つは**聖典と真理に尊敬**、もう一つは自分の**グル（先生）に尊敬**、最後に**自分自身に尊敬**です。その４つを併せてシュラッダーと言います。とても大事な言葉です。

ナチケーターはその種類の状態が心の中に入りました。その状態が心の中に入る前後に何があったのでしょうか。ナチケーターの心の中に尊敬が出るその前に、彼はお父さんの寄付を見ました。どうして贈り物（寄付）を見てナチケーターの心の中にその状態が現れたのでしょうか。それは次の第三節を見てください。

so’manyata（ソーアマンニャタ）は「彼（ナチケーター）は考えました」です。ナチケーターはとても若かったですけれども、お父さんが持っていた寄付を見て心の中にシュラッダーが現れました。ナチケーターの心の中にその考えは始まりました。そして次です。

**＜カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第３節＞**

「日本語解説」テキストの第３節を見てください。［最初にマハーラージが唱え、皆が後からくり返す、次に一緒に朗誦］

*pitodakā jagdhatṛṇā dugdhadohā nirindriyāḥ*；

ピトーダカー　ジャグダㇵトゥリンナー　ドゥグダㇵドーハー　ニリンドゥリヤーㇵ；

*anandā nāma te lokāstān sa gacchati tā dadat*.

アナンダー　ナーマ　テ　ローカースターン　サ　ガッチャティ　ター　ダダㇳ

pitodakā（ピトーダカー）は２つの語を一つに併せて書いてあります。そこでピトーとウダカーに分けます。ピトーの意味は「飲んでました」、ウダカは「水」ですね。そうするとピトーダカーは「水を飲んでました」ですがどんな特別な意味がありますか。

それは「今生での水を全部飲みました」ということでその意味は「もう飲むことはできない」です。今生での飲む限界（limit）が終わりました。「もう飲むことはできない」は「飲む力がなくもう飲めない」ということです。

pitodakā（ピトーダカー）は今説明したように「水を飲み終わり、もう飲まない」です。その雌牛はとても齢を取っていますからもう飲むことができずすぐに死ぬ、その状態にあるという意味です。

jagdhatṛṇā（ジャグダㇵトゥリンナー）は「草を食べ終わり、もう草を食べない」です。どうして食べないのか。食べる力がなく、食べても消化することができないということです。とても齢を取ったという同じ意味です。

nirindriyāḥ（ニリンドゥリヤーㇵ）は「仔牛を作ることもできない、子供を作る力もない」という意味です。そしてdugdhadohā（ドゥグダㇵドーハー）は「もう牛乳を出しません」という意味です。とても齢を取っていますから。

ですから、ここで言っているのは「もう水を飲まない、もう草を食べない、もう牛乳を出さない、子供を作ることもできない」ですが意味は何ですか。とってもとっても齢を取った雌牛だということです。

ナチケーターのお父さんはその種類の寄付をあげたい。ひどいじゃないですか（笑い）。聖典の中には、絶対に寄付をあげないといけない、と書いてあります。だから聖典に従ってはいます。従っていますけれど駄目でしょう、その種類の雌牛をあげるのは。聖典の中に、すぐに亡くなる可能性のある雌牛をあげてくださいとは書いてないでしょう。

ときどき我々の考えも同じです。例えば、お葬式のときできるだけ安い方法でやりたい。その考えはないですか。もったいないですからそのお金。お坊さんにあげる、儀式を行う。もったいないでしょ。そのことを考えてできるだけ安く（笑い）。

例えば、お賽銭は、できるだけ１０円（笑い）。１００円はないです。１円のこともありますね。ほとんどは１０円、神様に１０円、それがスタンダード（笑い）。そのお金がもったいないですから。お寺に入ったらお賽銭をあげないと良くないけれどできるだけ安く。ですからナチケーターのお父さんの考えは特別ではないです。我々も時々その考えがあります。

ナチケーターはみんな見ていました。お父さんがどんな雌牛をあげようとしていたのかを。それを見て、śraddhāviveśa（シュラッダーヴィヴェーシャ）、尊敬が心の中に入りました。尊敬とは何でしょうか。

もしお父さんがそのような雌牛をあげますとお父さんの状態はどうなりますか。お父さんは天国へ行きたいと希望してその目的でヤッギャーをしていましたが、そのような寄付をあげますと天国には絶対に行きませんね。どこに行きますか。地獄に行きます。

anandā nāma te lokāstān（アナンダー　ナーマ　テ　ローカースターン）、それが地獄です。お父さんはそのような寄付をしたら地獄に行きます。ナチケーターはそのことを考えます。考えて本当に心配します。良い息子でしたから。若い息子でしたがその考えが出ました。それがシュラッダー（尊敬）です。「心の中に尊敬が入りました」の意味はそれです。

［付記（Ｑ＆Ａ）］

（参加者）ナチケーターのお父さんの寄付の仕方はひどいと思いましたが自分でも同じようなことをしていないかと思うと怖くなります。本当に心がこもっているかどうかを神様が見ていらっしゃると思います。

（マハーラージ）そうです、大事なのは気持ちです。神様はものを見ていません。気持ちがどうかを見ています。神様は気持ちが好きです。例えば、クリシュナ神についてのこのような話があります。ドゥルヨーダナ王がクリシュナ神をランチに招待しました。その王様はあまり良い人ではなかったです。それでもクリシュナ神を尊敬していました。ランチはもちろん素晴らしいご馳走です。クリシュナ神にはビドゥーラという名前の信者もいました。彼はとてもとても貧乏でした。それでビドゥーラも同じ日にクリシュナ神を招待していました。ドゥルヨーダナはご馳走をたくさん用意しますけれど私は王様だといううぬぼれやエゴがあります。クリシュナ神を尊敬していますけれどそれほどの尊敬はありませんでした。クリシュナ神は偉大な方と思っていますが信仰はそれほど深くなかったです。ビドゥーラはとても貧乏でとても簡単なご飯しか用意できませんでしたけれども、尊敬が深い。クリシュナ神はそのことを考えてビドゥーラの家に行きました。わかりますね、神様は気持ちが好き。ものが好きではない。このことが我々のために大事です。気持ちがなければもので神様は喜ばないです。寄付をするときそれを考えることが大事です。神様はもの・お金を見ていません。気持ちを見ています。気持ちを受け取っています。今からそのことを考えてください、前のことを後悔しないで今からそのことを覚えてください。それが大事です。

以上